

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

2022年6月19日（日）

主 題：「真理にとどまりなさい」

—神の国に生きる聖徒—

テキスト：第一ヨハネの手紙2章22～25節

はじめに

・お早うございます！

・前回、私たちは「終わりの時」に生きるものであることを確認しました。著者ヨハネは「終わりの時」のしるしとして、反キリストが現れることを語りました。反キリストとは、イエスをキリスト（救い主）であることを否定するものです。

・ヨハネの時代に反キリストは、すでに現れていました。しかし現代も反キリストは活動しています。

ヨハネの時代から約2千年経過しましたが、反キリストが今なお活動していることは、「終わりの時」はさらに終わりに近づいたということです。

・そこでヨハネは、反キリストの教えに騙されないようにと勧めました。そして、ヨハネは反キリストを見分ける方法があることを説きました。

2:20 あなたがたには聖なる方からの注ぎの油があるので、みな真理を知っています。

「注ぎの油」とは聖霊のことです。聖霊は神の聖徒に働いてくださり、反キリストに惑わされないように導いてくださいます。ですから、私たちも聖霊の助けを得て、見分けることができるのです。ここまでが、前回に学んだところです。

・そしてヨハネはもう一つ、「終わりの時」に反キリストに惑わされないように、大切なことを伝えました。それは正しい信仰にとどまることです。2点、考えましょう。

大切なポイント

1. イエス・キリストは真理である

2:22 偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否定する者、それが反キリストです。

- ・「偽り者」とは、この場合正しい信仰からはずれた者のことです。ヨハネはここで、イエスは確かにキリスト（救い主）であることを強調しています。そのイエスとは、大工ヨセフの家で育ち、ガリラヤ（エルサレムから見たら田舎）で、みことばを語ったその人こそ「キリスト」であると言いました。
- ・イエスこそ約束の救い主（キリスト）であり、神の御子であると告白する信仰こそ、「真理」であると言いました。この告白を否定する「偽り者」は、御子を遣わされた御父をも否定する者です。これが「反キリスト」です。

- ・ヨハネが力を込めて強調したことは、書簡のはじめに書かれています。

1 ヨハネの手紙 1 章

- 1:1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、自分の目を見たもの、じっと見つめ、自分の手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて。
- 4:2 神からの霊は、このようにして分かります。人となって来られたイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。
- 4:9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。
- 4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

- ・イエスご自身も次のように言われました。
- 15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。

- ・ヨハネをこれほどまでに駆り立てたその背景には、この真理を否定する誤った教えの影響が、無視できないほど大きくなっていったことと思われます。
- ・一例を挙げるならば、当時ケリントス（紀元85年ごろ）という人物がいました。彼はヨハネと同じエペソに住んでいました。
- ・彼は、人間イエスと神的キリストとを分離させ、次のように主張しました。「人間イエスは他の人より善良で、賢い人物であっただけだ。その人間イエスがバプテスマを受けた時、神的キリストがイエスの上に下り、そして十字架にかかれる直前に、彼らから離れたのである。」その結果、人間イエスだけが十字架の苦しみを受けたと主張しました。
- ・またこの後、2世紀ごろ勢力を誇った異端グノーシス派は、物質や肉体を悪と

しました。したがってキリストは肉体を取らなかった主張しました。ケリントスは、このグノーシス派の考えにも影響を与えたと言われます。

- このようにイエス・キリストの人としての性質と、神としての性質を分離させて、そのいずれかを否定する教えに対し、ヨハネは「反キリスト」であると言いました。その反キリストの活動は、今なお活発であることは承知に事実です。

{例 話}

- 今年のはじめアフリカ・ヨハネスブルクで、「力強い奇跡」をテーマとする、大会が開かれました。講師はナイジェリア生まれの自称使徒ジョシュア・セルマン (Joshua Selman) でした。彼は「回復の使徒」と呼ばれています。彼の様子が You Tube で流されました。
- 彼がヨハネスブルク空港に到着し、税関を通過しロビーに現れると、彼の前に弟子と思われる人々が数人ひざまずきました、祝福の祈りを必死に求めています。
- 動画は次の場面に進み、空港の外に豪華なリムジンが停めてありました。セルマン氏がそれに乗り込むと、突然、4, 5 台の車がリムジンを取り囲むようにして、サイレンを流しながら出発しました。たぶん、警備の車であるとは思われます。
- 通常、このような光景が見られるのは、国の大統領か総理大臣が訪問した際ですが、「使徒」と認められた人間も信者たちから国賓なみの待遇を受けることがあるようです。
- 皆さん！ 現在、世界中に「使徒」と呼ばれる肩書を保持している人が多くいることをご存じでしょうか？それが「新使徒運動」と呼ばれる異端（カルト）です。
- 彼らは初代教会時代の使徒たちと同じような力と権威が与えられていると、信じられています。絶対的権威を持つセルマン氏は、「霊的な大将」であるそうです。つまり絶対的権威をもって命令が出れば、無条件の服従が要求されます。使徒は軍隊を率いる能力に優れた人で、彼らの支配社会で兵士たちが一つとなって、社会を変革させようとしているのです。
- 日本でこのような話を聞かれる皆さんは、なぜそのような新しい運動が起こるか不思議に思われるかもしれません。しかし、自分に自信が持てない多くの現代人にとっては、救いなのです。「自分で考えるのではなく、特別に選ばれた神の器に従いなさい」というメッセージは、大変魅力的で安心感を与えるものであると、カルト専門家は語っています。
- 実際、このような依存関係に入ると、マインドコントロールに直結し、思考力

や判断力が低下します。そして人間としての成長停止という恐ろしい結末に至ってしまうのです。これは私の友人であるカルト専門家の言葉です。

- ・空港で、セルマン氏から預言や祝福の言葉、そして癒しの言葉を慕い求める信者たちの姿は異様です。使徒ペテロの姿とはまったく対照的であります。

使徒の働き 10章

10:25 ペテロが着くと、コルネリウスは迎えに出て、足もとにひれ伏して拝んだ。

10:26 するとペテロは彼を起こして、「お立ちください。私も同じ人間です。」と言った。

- ・異端（カルト）は今の時代も同じように、いいえ「終わりの時」、最後の力を振り絞り活動しています。どうぞ注意ください。ヨハネは、昔も今も、イエス・キリストは真理である主張しています。真理はいつまでも変わりません。

2. キリストの教会は戦いの中にある

1) 戦う敵はさまざまである

- ・キリストの教会の戦いは、時代によって、また個々の教会によって、さまざまでした。たとえば新約聖書に登場する教会を見てみましょう。

① コリントの教会

- ・道徳的な問題、分裂・分派の問題、結婚。離婚の問題、復活の問題、姦淫の問題等です。今の時代にも通じる、あらゆる分野の問題がありました。コリントの教会は、大きく揺さぶられ混迷をしました。

② ガラテヤの教会

救いの問題が、大きく取り上げられました。イエス・キリストを信じるだけでは十分ではない、割礼を受ける必要があるという声も上がってきました。そこでユダヤ人クリスチャンと異邦人クリスチャンとの間で、救いについて意見が分かれました。混迷を深めました。

③ テサロニケの教会

キリストの再臨問題が中心にありました。再臨を否定する人々が出てきました。再臨があると教えられていましたが、まだ再臨が来ないではないか。再臨は本当にあるのだろうか。キリストの再臨は、本当にあるのだろうか。とさまざまな声が浮上してきました。混迷を深めました。

④ ペテロの手紙第一には、

- ・ 苦難の問題が強く打ち出されています。激しい苦難が聖徒たちに押し寄せ、信仰を保持することが大変でした。信仰が揺さぶられるような苦難が押し寄せていました。信仰のために迫害を受ける聖徒たちもいました。中には、信仰から離れていく人たちもいました。しかし、キリスト者は苦難を乗り越える力があることが記されています。

⑤ エペソを中心とする小アジアの教会

- ・ キリスト論が問題となりました。小アジアには、多くの教会が誕生しました。牧会、伝道できる器が不足していました。教会指導者も必要でした。しっかり指導者がいない中でさまざまな角度からイエス・キリストについていろんな意見が飛び交いました。混迷が深まりました。

* このように、キリストの教会は昔も今も、戦いの中にあります。

- ・ これらの問題は、いずれも真理の根幹にかかわる大きな問題でした。そこでヨハネは次のように勧めました。
2;24 あなたがたは、初めから聞いていることを自分のうちにとどませなさい。もし初めから聞いていることがとどまっているなら、あなたがたも御子と御父のうちにとどまります。
- ・ はじめから聞いていること、正しい信仰告白にとどまるようにと、言いました。信仰生活が進む中で、いろんな人たちがいろんな事を語りだし、はじめに聞いたイエス・キリストの福音から次第に外れてしまう人たちもいました。
- ・ 皆さん。クリスチャンはただ、まじめであれば良いというのではありません。真理を見分け、そこにとどまる必要があります。
イエスは「とどまる」ことに関して、次のように言われました。ヨハネの福音書 15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人にとどまっているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないのです。
- ・ 「とどまる」とは、どういうことでしょうか。それはぶどうの木でいうならば、木と枝のような関係（つながり）です。枝は木につながらなければ、養分を吸収し、実を結ばせることはできません。つまりぶどうの木であるイエス。キリストにしっかりとつながることが大切です。
- ・ それは実によって分かります。

2) 真理にとどまりなさい

- ・ぶどうの木であるイエス・キリストにつながる者は、真理にとどまる人です。その人には、次の2つの結果が現れます。

① 御子と御父のうちにとどまる

2;24 あなたがたは、初めから聞いていることを自分のうちにとどませなさい。もし初めから聞いていることがとどまっているなら、あなたがたも御子と御父のうちにとどまります。

- ・真理にとどまっているからこそ、光である神との交わりの中にとどまることができます。

② 永遠のいのち

2;25 これこそ、御子が私たちに約束してくださったもの、永遠のいのちです。

- ・永遠の命とは、神の本性です。神そのものです。真理にとどまる者は、約束された永遠のいのちを受け継ぐものとされます。神の国に入り、神の国に生きる人です。また永遠に神とともにいる者です。なんという幸いではありませんか。

ま と め

主 題：「真理にとどまりなさい」

—神の国に生きる聖徒—

- ・今朝も、主は私たちにお語りくださいました。
初代教会時代、イエスをキリストと信じる聖徒たちには、さまざまな戦いがありました。苦難、試練、誘惑、信仰を疑わせるような異端の教えもありました。そのような社会でも、キリスト者は強く生きることができます。
- ・反キリストや異端の教えが、どんなに強くなっても、イエスをキリストと信じる聖徒には、永遠のいのちが与えられています。ですから、はじめの信仰にとどまることが大切です。
- ・今日の説教のまとめとして、私は次の聖句で結びたいと願います。
2;24 あなたがたは、初めから聞いていることを自分のうちにとどませなさい。もし初めから聞いていることがとどまっているなら、あなたがたも御子と御父のうちにとどまります。

* God bless you!